

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P3101
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	3 教育の未来	施策の体系	01.身近な地域で安心して子育てができる環境づくり
施策の方針	地域での子育てを支援するための多様な保育ニーズへの対応や医療支援などを進めます。 ・多様な保育ニーズに応じた保育サービスの充実を図る ・妊娠・出産・子育てを支援し安心して生み育てられる環境をつくる		

担当部署	主管課	福祉課
	関係課1	町民課
	関係課2	学校教育課
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 産み育てやすい環境づくりのため、出産から子育てにかけて保護者の不安解消のための相談支援事業、出産を祝うすこやか赤ちゃん出産祝い金（第1子～第3子10万円/年・第4子10万円/年3年間・第5子以降10万円/年5年間）支給事業、病気に対する早期治療・重症化防止・家計の負担軽減のためのこども医療助成事業（18歳まで）、ひとり親家庭等医療費助成や病児病後児保育事業、安心して仕事ができるための延長保育事業や放課後事業健全育成事業（小学生対象）、3人以上の子育て世代の負担軽減のための多子世帯子育て支援事業など幅広く支援をしている。 産前産後ホームヘルプサービス事業は、産前産後の体調不良等の為、家事・育児が困難な家庭に家事等の援助を行うことを目的に、ヘルパーを派遣し母親の精神的、身体的負担を軽減するために実施している。保健師が母子手帳交付時等に必要と判断した方や、妊婦からの相談にもとづきサービスを提供している。 給食費助成について、地産地消の観点から氷川町産米価差額補助金が措置されている。食材費は、消費税率変更による生産コストの増大で加工品に若干の値上がりが見られるようになっている。将来的には給食費が不足することも考えられることから、新たな給食費助成金を措置するため、他市町村の措置状況等を含めて情報収集を行っている。
--------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	放課後児童健全育成事業	25,116	福祉課	適正な運営による事業継続(箇所)	3	3	3				3	A
2	病児・病後児保育事業	8,647	福祉課	実施施設整備率100%(1箇所) (箇所)	0	1	1				1	A
3	地域生活支援事業(障がい児タイム ケア事業含む)【再掲】	-	福祉課	対象者に応じたサービスの提供	実施	実施	実施				実施	A

4	子どもを生き育てやすい環境の創出・子育て支援事業(延長保育・障がい児保育・軽度障がい児保育事業)	417,164	福祉課	延長保育促進事業実施率100%(5カ所)(カ所)	5	5	5				5	A
5	ひとり親家庭等医療費助成事業	1,763	福祉課	一人当たりの医療費削減率(%)	0	△15	△15				△15	A
6	こども医療に関する助成事業	48,453	福祉課	児童一人当たり助成回数(制度利用度合)(回)	14.49	16.87	14.32				15	A
7	母子保健事業	73	町民課	乳児訪問率(%)	100	100	100				100	A
8	児童虐待防止体制強化事業	39	福祉課	ケースへの対応率(%)	100	100	100				100	A
9	産前産後ホームヘルプサービス事業	1,227	町民課	家事負担が減った利用者の割合(%)	100	100	100				100	A
10	すこやか赤ちゃん出産祝い金支給事業	7,875	福祉課	申請件数(件)	77	81	79				80	A
11	保育料助成事業(多子世帯子育て支援事業)	7,485	福祉課	熊本県多子世帯子育て支援事業実施率(%)	100	100	100				100	A
12	給食費助成金事務	0	学校教育課	学校給食費助成事業実施(%)	未実施	未実施	未実施				実施	B
13	子育てワンストップサービス整備事業	0	福祉課	子育てワンストップサービス整備率(%)	0	0	0				100	C
14	子育て世代包括支援センター事業の推進	0	町民課 福祉課	子育て支援センター利用者数(人)	1,350	1,370	1,756				1,500	B
15	就学前特別支援員事業	0	福祉課	就学前特別支援員配置率(%)	0	0	0				100	C
16												

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> 障がいを持つ子どもの増加や子どもに対する虐待事案の増加など、保護者のストレスを解消するため相談支援体制の強化が必要。 産前産後ホームヘルプサービスについては、必要な方への介入ができていないが、子育て世代へのサービスをさらに充実するため、課題の明確化により施策を検討する必要がある。 給食費助成について、給食費は平成26年度から小学校年額44,000円(一食単価228円)、中学校年額50,600円(一食単価262円)となっているが、食材費の増加でやり繰りが厳しくなりつつある。今後の食材費の変動にも対応できる補助金を考えていく必要がある。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> 給食費助成について、他市町村の情報収集も行いながら、現在措置している氷川町産米価差額補助金との兼ね合いも考慮した補助金のあり方を考えていく。 子育て世代包括支援センターの設置により、母子手帳の交付から関わりのある保健師を中心に関連する課・係と連携し、ワンストップで支援できる体制となった。子育て支援について対象者にわかりやすく利用しやすいものにしていく。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	A
------	---

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<p>・子育ての悩みを持ったままどうしていいのかわからない保護者の早期発見</p>
<p>今後の 施策展開</p>	<p>・子育て支援センターの取組みを町のホームページで紹介したり、さくら通信として催し物やイベントの紹介をしている。また、母子手帳交付時に、さくら通信など子育てに関する情報を配信するメールへの登録を求め、子育てに関する悩みの解消を行う。 ・定住自立圏の圏域全体で子育て支援を検討していく。</p>

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合 評価</p>	<p>A</p>
------------------	----------

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【母子手帳交付時の保健指導】個別面接時間を要するため、効率的な指導内容で提供できるよう工夫する必要がある。 ・【PTA活動支援事業】町PTA連絡協議会については、町内小中学校が事務局を持ち回りしていることから、町が干渉することが少ない。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【母子手帳交付時の保健指導】0歳から18歳までの児とその保護者への切れ目のない支援が必要であり、子育て世代包括支援センター（令和2年4月設置）を拠点として、サービスの見える化をすすめている。これまで以上に関係者間の連携を図っていく。 ・【PTA活動支援事業】町PTA連絡協議会が例年開催している教育講演会は、家庭・地域・学校の教育力を高める機会となっていることから継続して実施し、その他の事業についても活発となるよう事務局を支援したい。 ・【家庭教育支援事業】今後も継続して取り組んでいく。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>A</p>
-------------	----------

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P3201
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	3 教育の未来	施策の体系	01.子どもの心と体を鍛える特色ある学校教育の充実
施策の方針	氷川の子どもたちの教育を住民みんなで考え、学校を中心とする教育活動の充実と住民の参加を促進していきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育の目標を確立し、住民で共有する ・基礎学力向上のための教育プログラムの充実を図る ・体験型の実践的な教育機会の充実を図る ・教育相談機能、特別支援教育の充実を図る 		

担当部署	主管課	学校教育課
	関係課1	生涯学習課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【次世代育成推進フォーラムin氷川町】東京大学の玄田有史教授を招き開催し、263名の参加があった。地域の宝である「氷川っ子」が希望を持ち、夢の実現に向かってたくましく生きていくために必要なことを多くの町民と共有することができた。 ・【指導主事の導入による教育の充実】指導主事の配置により、教育課程や学習指導の専門的な知識や経験を活かした学校教育活動の指導・助言を行うことができている。氷川町の子どもたちの学力向上に資するため、各学校を訪問しての指導に加えて、効果的な研修会や会議の企画・運営を行い、教職員の資質・専門性の向上に貢献できている。 ・【小・中学校における外国語教育の充実】小学校の新学習指導要領が2020年度完全実施されるにあたって、小学校第3学年以上の全ての外国語の授業に英語活動支援員を参加させることで、外国語教育の充実が図られた。 ・【宿泊通学体験事業】自然の中で共同宿泊や炊飯を行うなど貴重な体験の場となっており、竜北東小学校27人、竜北西部小学校40人、宮原小学校49人(2クラス)の計4回開催し、116人の参加があった。 ・【教育相談事業】教育相談員の配置により、各学校のいじめ・不登校対策をより効果的に推進することができるとともに、個別の事案に対する相談業務の充実が図られた。 ・【特別支援教育事業】特別支援教育支援員の配置により、子ども一人一人の教育的ニーズに合わせた教育活動が充実し、「一人も取り残さない」教育を展開することができている。
------------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	「氷川っ子ビジョン」の推進	0	学校教育課	教職員の共有10割、地域住民の共有5割	教職員8割程度、地域住民できていない	実施	実施				実施	B
2	次世代育成推進フォーラムin氷川町	200	学校教育課	「次世代」育成推進フォーラムin氷川町開催・継続	実施	実施	実施				実施	A
3	指導主事の導入による教育の充実	10,872	学校教育課	指導主事導入継続	実施	実施	実施				実施	A
4	「ひ・か・わ」型学習推進事業	0	学校教育課	学力調査において全国・県平均(定着率)を上回る。	実施	実施	実施				実施	B
5	小・中学校における外国語教育の充実	8,397	学校教育課	支援員・ALTの配置継続、英語検定補助金交付を継続し、3級合格者割合が全国平均を上回る	実施	実施	実施				実施	A
6	幼・保、小、中の連携強化	0	学校教育課	学校・就学前部会により連携継続	実施	実施	実施				実施	A
7	少人数、TT(チームティーチング)授業	0	学校教育課	学力調査において全ての学校・学年で全国・県平均(定着率)を上回る。	学校・学年により学力(定着率)に差	実施	実施				実施	B
8	小学校学力向上対策	0	学校教育課	長期休業中及び放課後の学習会を計画的に実施継続	夏季休業中パワーアップ学習会実施	実施	実施				実施	A
9	宿泊通学体験事業	1,531	生涯学習課	次年度のJL参加者数(人)	10	3	4				20	B
10	教育相談事業	1,962	学校教育課	相談員の配置継続により、不登校児童生徒の割合を小中学校ともに0%を目指す(%)	10.6	10.9	1.9				0	B
11	特別支援教育事業	21,375	学校教育課	町内小中学校への適正な特別支援教育支援員の確保・配置継続	実施	実施	実施				実施	A
12												

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「次世代育成推進フォーラムin氷川町」の取組は、令和元年度で14回を重ねることができ、町民総がかりで子どもの健全育成を図る機運を高めるという初期の目的を概ね達成することができた。今後は各学校のコミュニティ・スクール（CS）が自立的・主体的な取組を展開し、次のステージへと発展させていく必要がある。 ・外国語教育の充実に関しては、中学校に配置するALTの質の向上が課題として挙げられる。各中学校の英語担当教員と適切に連携・協働して生徒の英語力の向上に貢献できるような人材を確保する必要がある。 ・宿泊通学体験事業の内容については、受託者任せとなっており固定化している。次年度のジュニアリーダー参加者については僅かながら増加傾向にあるが、目標には達していない。 ・特別支援教育支援員の手厚い配置により、各学校の個に応じた教育活動の充実が図られている。今後は支援員一人一人の資質を向上させるために、より効果的な研修体制の確立が求められる。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで14回実施された「次世代育成推進フォーラムin氷川町」における学びを生かして、各学校のCSが自立的・主体的に取り組む「CSの日」を支援していく。具体的支援の方法としては、「CSの日」に係る経費の措置と活動内容に関する指導・助言を合わせて行う。 ・中学校に配置するALTについては、各学校の英語担当教員の意見を十分に聞き、生徒の英語力向上のためにはどのような資質を備えたALTが必要であるのかを把握し、それに応じた人材を配置できるようにしていく。そのために、ALT派遣業者を慎重に選定し、質の高い人材の確保に努める。 ・宿泊通学体験事業の内容については受託者と話し合っ改善することが必要。ジュニアリーダー参加の推進については、町子ども会育成連絡協議会に加入していない地区はジュニアリーダーとの関わりが薄く、活動が認知されていないと考えられる。宿泊通学体験を通じて自主性や協調性の向上が期待できることから、引き続きクリスマスケーキ作りや門松作りなど、町子ども会育成連絡協議会への事業参加を促すことでジュニアリーダーの活動を知ってもらい、ジュニアリーダーの参加増につなげたい。 ・特別支援教育支援員の研修について、これまで八代市と合同で行ってきた理論研修に替えて、実践的支援力を高めるために各学校におけるOJTの研修を中心に実施する。併せて、放課後等の個別指導にも積極的に関わり、子ども一人一人の学力向上にも貢献しようとする支援員の意欲も高めていく。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

<p>総合評価</p>	<p>A</p>
-------------	----------

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P3202
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	3 教育の未来	施策の体系	02.学校教育に関わる地域の参加促進
施策の方針	地域の人たちが学校と連携して子どもの教育に関わるための機会や仕組みの充実を図ります。 ・ 地域の環境や人材を活用した体験学習の充実を図る ・ 地域の人材を活用した授業・部活動の充実を図る ・ 「地域とともにある学校づくり」の推進を図る		

担当部署	主管課	学校教育課
	関係課1	生涯学習課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 【小学校における体験活動】 小学校第5学年社会科の学習とリンクさせた稲作体験活動などを通して、児童に豊かな体験活動を経験させることで学びを深めることができている。 【小・中学校コミュニティ・スクール推進事業】 各学校運営協議会や中学校区拡大運営委員会の充実が図られ、主体的・積極的な取組が進められた。また、CSディレクターの配置で、氷川町コミュニティ・スクール連携協議会や5校合同学校運営協議会研修の充実と併せて、CSだよりの発行・HP掲載による町民への広報・啓発も推進することができた。さらに、「次世代育成推進フォーラムin氷川町」の開催にあたっては、各学校のCS委員も積極的に関わり、町民総がかりによる子どもの健全育成を進めることができた。 【子どもたちへの防災教育の推進】 町の防災訓練に中学生を参加・活躍させることで、防災に主体的に関わろうとする意識や態度を育成するとともに、地域の一員としての役割を自覚し、よりよい社会の形成者として地域に貢献する資質・能力を高めることができた。また、氷川中学校区（宮原小学校・氷川中学校）では、CSと連携した防災教室を企画・実施し、地域総ぐるみの防災教育を進めることができた。さらに、例年すべての学校で「氷川町（組合）小・中学校防災教育年間計画」に従った教育実践を学校総体で進め、防災教育の充実を図ることができている。 【地域学校協働本部事業】 学校、地域、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）との連携により、多様な形態の学校支援を行うことができた。学校支援の件数も増加し、家庭教育支援の内容も充実してきている。地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図っている。地域コーディネーターは、学校からの様々な要望に対し、地域のボランティア等を活用し、要望に対応しており、地域や学校を繋ぐパイプ役を担っている。
--------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	中学校における体験学習	0	学校教育課	体験活動を実施継続	実施	実施	実施				実施	A
2	小学校における体験学習	70	学校教育課	農業体験を実施継続	実施	実施	実施				実施	A

3	小・中学校「総合的な学習の時間」の講師活用事業	0	学校教育課	地域人材を活用した、ふるさと「氷川学」の講師活用継続	実施	実施	実施				実施	A
4	中学校部活動指導員推進事業	0	学校教育課	部活動を安定的に運営することを目的とした外部指導員の人数(人)	7	7	8				10	B
5	小・中学校コミュニティ・スクール推進事業	2,627	学校教育課	CSの更なる充実、会議・活動等推進事業の継続	実施	実施	実施				実施	A
6	地域での子どもの居場所づくり	0	学校教育課	地域住民の参画による子どもの居場所づくりの支援継続	実施	実施	実施				実施	B
7	子どもたちへの防災教育の推進	0	学校教育課	防災訓練を全ての地区で実施	実施(3地区)	実施(9地区)	町防災訓練に参加				実施(39地区)	B
8	地域学校協働本部事業	2,662	生涯学習課	支援を受けた小中学生数(人)	942	891	884				950	B
9												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【小中学校における体験活動】学校における学びを深めるという視点と併せて、キャリア教育の点からも重要な教育活動である。町内の3つの学校が取り組んだ「起業体験推進事業」における学びを生かしながら、より豊かな体験活動を通して子どもに「生きる力」を身に付けさせていく必要がある。 ・【小・中学校コミュニティ・スクール推進事業】各学校のCSの取組は充実してきているものの、学校によるばらつきがある。今後は氷川町コミュニティ・スクール連携協議会や5校合同学校運営協議会研修の場を活用して、先進的な取組を共有しながら、各CSの自律的・主体的な取組を支援していく必要がある。 ・【子どもたちへの防災教育の推進】継続的に実践していくことが大切である。熊本地震から4年が経ったことによって意識が低くなることを避けるためにも、年間指導計画に沿った防災教育を確実に実践するとともに、地域と連携した防災教育・防災訓練をさらに充実させていく必要がある。 ・【地域学校協働本部事業】今後は、地域コーディネーターの育成や人材の発掘が課題になる。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【小中学校における体験活動】今後も地域学校協働本部と連携した取組を推進し、子どもの豊かな体験活動の実施のために予算の措置も継続していく。また、キャリア教育とリンクさせ、子どもの社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成を図っていくように各学校に指導・助言を継続していく。 ・【小・中学校コミュニティ・スクール推進事業】CSディレクターを中心に、氷川町コミュニティ・スクール連携協議会や5校合同学校運営協議会研修の充実を図っていくことで、各CS委員の資質を向上させ、自律的・主体的な取組が推進できるようにしていく。 ・【子どもたちへの防災教育の推進】各学校における防災教育推進のために、校長会議等において各校の推進状況を把握するとともに、「氷川町(組合)小・中学校防災教育年間計画」に沿った取組を確実に実践していくように指導する。また、地域と連携した防災教育・防災訓練については、総務課と連携して取組を進めていく。 ・【地域学校協働本部事業】学校だけではなく、地域のボランティア(特に老人会、婦人会等)にとっても、子ども達との交流や、知識、経験を生かす場となっており、やり甲斐を感じることができ、地域全体が活発になるため、継続した取り組みを行っていく。

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	A
------	---

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【ICT教育推進事業】ICT機器の計画的更新（費用）が必要になる。 ・【八火図書館振興（イベント）充実業務】今後も、より多くの方々に利用してもらえるように、新刊やイベント等の案内や紹介を進めるとともに利用者のニーズを踏まえた図書館資料の収集を進めていく。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【ICT教育推進事業】ICT機器を授業に効果的に活用することで子どもたちの学力向上に期待ができる。 ・【八火図書館振興（イベント）充実業務】図書館利用の促進・読書意欲の高揚を目指したイベントを開催することで、「地域住民の方が気軽に立ち寄れる図書館」、「学校とのつながりを大切にする図書館」にしたい。また、八代市図書館との相互利用については、住民のニーズに応えるため、継続していきたい。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>A</p>
-------------	----------

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P3301
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	3 教育の未来	施策の体系	01.地域・学校・家庭が一体となって、幼児から青少年まで一貫して子どもの健全育成を見守る地域の環境と体制づくり
施策の方針	子ども会活動をはじめ、身近な地域で子どもの健全育成を見守り、推進する活動の充実を支援していきます。 ・ジュニアリーダー活動の活性化 ・子ども会活動の活性化 ・子どもが活躍できる環境づくり ・子どもの健全教育を見守る組織の充実		

担当部署	主管課	生涯学習課
	関係課1	
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 町子ども会育成連絡協議会では、球技大会、納涼祭流し踊り、三神宮秋季大祭子どもみこしなどの行事や、各地区の子ども会長を中心に活動する桜っ子クラブを行っている。また、ジュニアリーダーは県のジュニアリーダー事業への参加や子ども会事業、梨マラソン大会等のイベントでのお手伝いに積極的に活動しており、継続加入者も徐々に増加している。 町青少年育成町民会議では、十八夜祭、納涼祭、地蔵祭における巡回街頭補導を行っている。また、他団体との共催事業として、クリスマスケーキ作り、ミニ門松作り、子ども会大会（子ども会育成連絡協議会）、教育講演会（町PTA連絡協議会）を開催している。
--------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	ジュニアリーダー・シニアリーダー育成及び活動機会の充実	0	生涯学習課	継続してJLに加入している人数(人)	16	13	31				13	A
2	子ども会活動活性化支援事業	450	生涯学習課	次年度ジュニアリーダー参加者数(人)	18	3	4				20	B
3	子ども会運営改革の検討	0	生涯学習課	町子ども会登録地区数(地区)	17	17	17				18	B
4	子ども会地域交流事業	0	生涯学習課	納涼祭流し踊り参加者数(人)	28	中止により 0	21				30	B
5	子どもが活躍できる場づくり	0	生涯学習課	高校生以下の社会教育施設の利用申請数	0	0	0				5	D
6	青少年育成町民会議活動支援事業	500	生涯学習課	青少年町民育成会議の支援	実施	実施	実施				実施	B

7												
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・町子ども会育成連絡協議会に加入する竜北地区の子ども会が少なく偏りがある。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアリーダーは継続加入者も増え、地区の偏りも改善傾向にあるため、現状を維持することが重要となる。 ・子ども会活動については、桜っ子クラブを中心に子どもが主体となって活動できるよう支援したい。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P3302
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	3 教育の未来	施策の体系	02.地域の特色ある自然環境、まちづくりを活かした体験・交流機 会の創出
施策の方針	地域の自然環境を活かした体験・交流活動や他の町との交流、さらにまちづくり活動を通じた体験と交流機会の充実を進めます。 ・多様な交流機会の充実 ・まちづくり活動への子どもたちの参加機会の充実		

担当 部署	主管課	生涯学習課
	関係課1	企画財政課
	関係課2	地域振興課
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【ふれ愛スタディ研修交流事業】友好町である北海道大空町とは、桜や特産品、中学生の相互交流、災害時相互応援協定など様々な分野での交流活動を展開している。ふれ愛スタディ研修では、雄大な自然が広がる北海道で大空町の中学生と交流を深め、北方領土問題やアイヌ民俗などについて実体験学習を行っている。 ・【大学などとの連携による学習支援事業】全国大学政策アカデミー実行委員会の事業（町が後援）の一環で、これまでインターン生が小学生への学習指導を行ってきた。令和元年度は、宮崎大学でジュニアリーダー研修を実施し、人口減少についての学習を行った。また、熊本高専と連携協定を締結した。 ・【地区づくり活動への参加支援】各地区が地域の行事と一緒に実施することで、まちづくり活動への子どもの参加機会を図っている。 ・【まちづくり拠点（まちづくり情報銀行・まちづくり酒屋）の活用】職場体験の受入れ、宮原まちづくり株式会社で行われるイベント等を通して子どもたちに体験・交流の場を提供している。 ・【ふるさと学習】自分たちで育てた大豆から味噌を作ったり、干拓の歴史についての学習を行ったり、地域の人材を活用しながら郷土愛を育む学習を行っている。
------------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	ふれ愛スタディ研修交流事業(中学生交流)	2,573	生涯学習課	交流事業参加者数(人)	13	12	15				18	B
2	放課後子ども教室	0	生涯学習課	必要に応じて協議	-	未実施	未実施				必要に応じて協議	C
3	大学などとの連携による学習支援事業	5	企画財政課	交流人口(人)	0	16	29				20	A

4	地区づくり活動への参加支援	0	地域振興課	取組地区数(地区)	35	39	39				39	B
5	まちづくり拠点(まちづくり情報銀行・まちづくり酒屋)の活用	0	地域振興課	まちづくり拠点活用件数(件)	5	5	5				5	B
6	ふるさと学習による子どもの地域行事への参加促進	40	生涯学習課	参加者数(人)	-	30	161				100	A
7												

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【ふれ愛スタディ研修交流事業】定員を満たしていないため、追加募集などを行い、なるべく多くの参加者を募る。 ・【放課後子ども教室】学童保育と同様に放課後等の子どもの居場所づくりを目的とした事業であるが、現在のところ設置に至っていない。 ・【大学などとの連携による学習支援事業】全国大学生政策アカデミー実行委員会と連携し事業を行いながら、町独自の学習支援の取り組みを検討しなければならない。 ・【地区づくり活動への参加支援】全地区において、伝統行事の継承等で子どもたちが地域住民と一緒に活動を実施している。反面、少子高齢化や娯楽の多様化などで地域行事に参加する人数が固定化・減少傾向にある。 ・【ふるさと学習】平成30年度より実施しているが、まだ認知度が低いのが課題である。
-------	--

今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【ふれ愛スタディ研修交流事業】個々の視野を広め、相互の友好関係の発展に寄与し、併せてまちづくりの担い手として育成することを目的に氷川町と大空町の中学生が互いに全く異なる生活を体験することで多様な見識を得るとともに、改めて郷土の素晴らしさを知り、未来の氷川町の発展に寄与するものであり、交流機会の充実に努めていく。 ・【放課後子ども教室】放課後子ども教室、学童保育ともに目的を放課後等の子どもの居場所づくりとしている。平日等の子どもの居場所づくりについては、学童保育が展開、充実しているため、休日等の居場所づくりとして、桜っ子クラブ、子ども会等事業で展開していく。 ・【大学などとの連携による学習支援事業】連携協定を締結した熊本高専と今後交流を進めていくとともに、全国大学生政策アカデミー実行委員会と連携し、町独自としての取組も行っていきたい。 ・【地区づくり活動への参加支援】担い手の高齢化や減少により、近隣の地区（他自治体含む）と共同で地区行事を実施する事も検討する時期に来ている。 ・【まちづくり拠点（まちづくり情報銀行・まちづくり酒屋）の活用】多くの体験学習を実施し、地域住民との交流機会を図る。 ・【ふるさと学習】公民館活動や学校を通じて、周知・啓発を行っていく。
---------	--

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none">・【生涯学習講座実施】講座の受講者数が減少傾向にある。また、他自治体と比較すると講座数が少ない。・【人材育成研修助成事業】予算に対し、利用者が少ない。町民の間での事業の認知度が低い。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none">・【生涯学習講座実施】講座内容の充実を図るため、ニーズや講師を把握する。・【人材育成研修助成事業】各種団体、部会等に、制度の周知を行い、さらなる活用を図っていく。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
B: 目標に向かってある程度進んでいる
C: 目標に向かってあまり進んでいない
D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---